

## 謹告「早稲田の東亜貴重資料展」《10月7日から開催！》

高木 理久夫（資料管理課／展示委員会）

2022年10月7日（金）から早稲田大学総合学術情報センター2階展示室にて図書館企画展「早稲田の東亜貴重資料展」が開催されます。図書館が所蔵する、中国、朝鮮半島、日本の東アジアの貴重資料が出陳されます。

【国宝展示】日本中国学会の大会が、早稲田大学で開催されることに合わせて、10月7日（金）から9日（日）までの期間は国宝2点の展示が5年ぶりにおこなわれます。存分に鑑賞していただけるように、展示ケースいっぱいになり巻子を広げて展示しますので、この3日間の展示資料は、次の4点を予定しています。

- ① 国宝「礼記本疏義」
- ② 国宝「玉篇」
- ③ 「大隈侯大徳頌」康有為撰文ならびに書
- ④ 「鴻跡帖 清国来賓記念・清国学生卒業記念筆墨」

10月10日（月・祝）に出陳資料を入れ替え、翌日から次の6点を追加展示します。

- ⑤ 「孫文書簡 大隈重信宛」
- ⑥ 「西域水道記」清・徐松撰 銭恂寄贈本
- ⑦ 「朝鮮文庫」京城 學藝社刊 早大朝鮮同窓会寄贈本
- ⑧ 吉田東伍「大日本地名辞書」稿本
- ⑨ 澤田瑞穂「風陵文庫」宝巻、影絵、年画
- ⑩ 「中国文化大革命史料」通知、報紙、毛主席語録・徽章

【展示構成と内容】ご存知のように、フランス語histoireは、「歴史」そして「物語」という二つの意味をもちます。展示資料は、国宝をはじめいずれも史料的価値がきわめて高いものばかりで、それらをめぐる人たちの物語も、実に波乱に富んでいます。10点の展示資料には、それぞれにまつわる物語（中国語で「故事」）のキャプションを添える予定です。たとえば、

○戊戌変法（1898）を企てた康有為（1858-1927）と、清朝を打倒し、さらに袁世凱に対して第二革命を企てた孫文（1866-1925）に対する大隈重信の評価の違い（大いに違います）。

○日中戦争下、弾圧を受けた朝鮮語図書の運命と早稲田大学図書館の対応。

等々、十故事を資料とともに伝える予定です。

特に孫文の大隈宛書簡は、訳文とともにじっくり鑑賞していただきたいと思います。

「一国民党を助けてその政府を倒すことは、国際的に普通のことではありません。しかし、昔も今も尋常ならざる者だけが、尋常ならざることを行なって、尋常ならざる功を立てることができるのです。私が思うに閣下は尋常ならざる人物であり、今は尋常ならざる機会に遭遇され、まさに閣下が大いにその経綸を発揮される時機であります」（深町英夫編訳『孫文革命文集』岩波文庫2011より）この孫文の真摯な訴えに、大隈重信はどう考えていたのか、あなたの目で、確認してみてください。

### 【早稲田の東亜貴重資料展】

◆開催期間：2022年10月7日（金）～11月4日（金）

◆開室時間：10時～18時

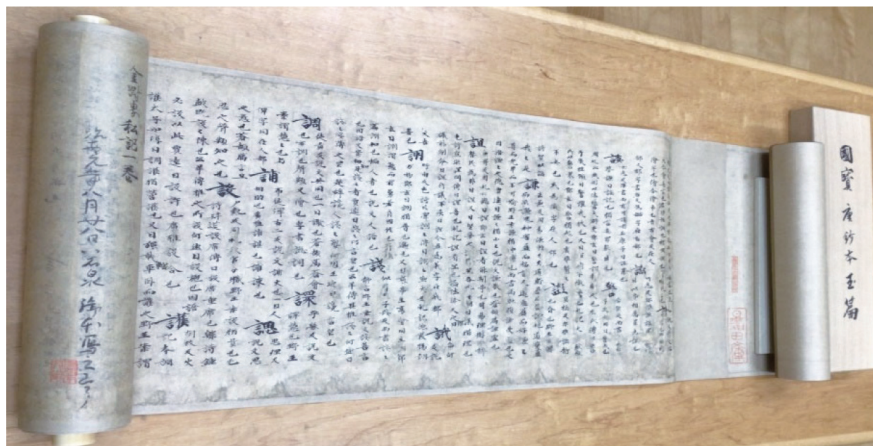
◆会場：早稲田大学総合学術情報センター2階展示室

\*会期中の日曜日、祝日は閉室します。ただし、10月9日（日）は開室します。

\*11月4日（金）は、17時までです。

\*入場無料です。

\*図書館入館資格のない方でも、ご覧いただけます。



国宝「玉篇」